

りんご研究所ニュース



コロナ禍の中:

【青森県りんご果実及び立木品評会】

12月1日、(公財)青森県りんご協会主催の第75回青森県りんご果実品評会の審査を弘果特設会場で当研究所職員が行いました。県南地区でも11月



写真提供：(公財)青森県りんご協会

29日に県南果樹部長らが審査しました。本年は、春の凍霜害、夏場の猛暑、さらに6月から9月まで長期にわたる少雨など、苦勞の多かった年でしたが、出品されたりんごはいずれも優秀付けがたく、本年も素晴らしいものばかりでした。



写真提供：(公財)青森県りんご協会

審査の結果、団体の部
全県第1席・農林水産大

臣賞は平川市広船支会が2年ぶり20回目、個人の一部全県第1席・農林水産省生産局長賞は青森市郷山前支会の福士寛和氏が初受賞しました。おめでとうございます。これに先立って、立木品評会の審査があり、10月19日に有袋審査、同28日に二次審査、同29日に最終審査を当研究所職員が行いました。



写真提供：(公財)青森県りんご協会

審査の結果、集団の一部全県第1席・農林水産大臣賞は平川市広船支会が9年ぶり7回目、りんご及び立木両品評会のダブル優賞は平成17年、24年に続き3度目となる快挙を達成しました。個人の一部全県第1席・青森県知事賞は同支会の桑田力氏が初受賞しました。おめでとうございます。また、12月24日の褒賞授与式及び受賞記念祝賀会では、工藤所長が審査報告を述べました。

【献上りんご】

12月8日、りんご研究所研修館で、天皇皇后陛下、上皇皇后陛下並びに各宮家に献上するりんごの選果、箱詰め作業を行いました。献上りんごは、昭和3年から始まり、今回で77回目となる伝統かつ名誉ある行事です。本年も当研究所で収穫されたりんごから厳選した「ふじ」と「王林」の詰め合わせを献上しました。女性園場員は、多くの



報道機関の撮影に緊張しながら、りんごを和紙で丁寧に梱包し、箱詰め作業を行いました。9日に当研究所から発送し、10日に宮内庁など7か所へ無事献上されました。



【りんご有望系統及び青 り30号所内圃場検討会】

10月13日、当研究所藤崎圃場で、りんご有望系統の所内圃場検討会を行いました。長期貯蔵向け品種の開発を目的に一次選抜し、二次選抜候補として有望な系統について、樹姿や成っている果実の特性などを観察しながら意見交換しました。



また、11月12日、黒石圃場において、小雨の肌寒い中でしたが、一昨年に二次選抜した青り30号の所内圃場検討会を行いました。今後、貯蔵試験を行っていきます。

【収穫作業台車の実演会】



11月25日、県りんご果樹課主催の「りんご生産者のための軽労化機械実演会」が、当研究所圃場で開催されました。当日は雨にもかかわらず、生産者や農協などの関係者約90名が参加しました。今回実演した収穫作業台車は、オランダ製で鱈ヶ沢町の(有)白神アグリサービスが数年前に直接輸入したものです。通路の真ん中を走り、機械の左右に2名が乗って樹の上部を、地上で2名が下

部のりんごを手でもぎ取り、コンベヤーに1果ずつ載せると、自動的に後ろの大型コンテナに入る仕組みです。コンテナがいっぱいになるとその場に置き、後でフォークリフトで回収する流れです。従来の梯子と手かごを使用しない収穫方法に参



加者は、興味深く見入っていました。大型機械が入れる園地(樹)づくりや使用する際の課題などについて、意見交換が行われました。海外製で輸入経費等含めかなり高額であるため、今後は国内農機メーカーの開発に期待したいところでは。

【職員表彰】

11月26日、産業技術センターの職員表彰式がありました。当研究所からは「りんご黒星病対策プロジェクトチーム」が、平成28年から青森県内のりんご園で3年連続多発



した黒星病の発生要因の解明と新しい防除体系の確立によるりんごの安定生産への貢献が評価され表彰されました。

【令和3年度(第42回)試験成果・情報発表会のWEB開催のお知らせ】

新型コロナウイルスは、現在のところ県内では感染者がほとんど確認されなくなり、落ち着いていくことから、令和3年度試験成果・情報発表会を2年ぶりに会場で開催する方向で検討してまいりました。

しかし、海外では再拡大し、国内でも新たな変異株のオミクロン株の市中感染が確認され、第6波が懸念されるため、「好きな時に何回でも観れる」との声もあったこともあり、本年度もWEB開催とすることにしました。なお、詳細については追って当研究所HP等でお知らせしますので、ご理解のほどよろしくお願いたします。